

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成27年 1月 6日更新

事務事業名		住宅新築資金等貸付金償還事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	大高和弘
	施策	26	財政改革の推進			所属課	人権啓発教育課	担当者名	曾我陽子
	基本事業	93	自主財源の確保			所属班	啓発教育班	(内線)	2513
予算科目		会計一般	款12	項1	目1	事業連番11122 他	法令根拠	成果優先度評価結果 : ⑦ コスト削減優先度評価結果 : ⑥	
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 25年度で終了 <input type="checkbox"/> 25年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 43 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	昭和44年に制定された、同和对策事業特別措置法に始まる事業で、当時の対象地区に居住する住民を対象に、環境整備の一環として、住宅新築等に係る資金について貸付事業を行っていたが、その貸付を町が郵政省より借り入れをしており、その元金及び利子の償還を行う事業である。対象地区の住環境整備を目的として、旧合志町においては昭和42年、旧西合志町においては昭和44年に最初の貸付が始まったが、その資金を郵政公社より町が借り入れをし、対象者に貸付を行った。その後、平成14年に法が失効し、国による住環境整備事業への補助事業はなくなり、事業は特別対策から一般対策へ移行した。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	償還計画に基づき、株式会社かんぼ生命保険へ本年度分の元金、利子の償還を行う。
【主な予算費目】	公債費(元金償還金、利子償還金)
【意見や要望】	特になし。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動)25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)	公債費(元金、利子)の株式会社かんぼ生命保険への償還事務。9月と3月に償還。	26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 償還額(元金) 円 償還額(利子) 円	予算の主な増減の理由 償還計画どおりの償還であり、特に理由はない。
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	市公債費	②対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) 償還未済残高(元金) 円 償還未済残高(利子) 円
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	株式会社かんぼ生命保険へ適正な償還を行う。	③成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) 予算執行率 %
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠 適正な償還を行うことを意図としているため。		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	23年度 実績(決算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	27年度 予定	28年度 見込	29年度 見込
①活動指標	ア	円	5,751,339	3,985,159	3,643,978	3,643,978	3,875,953	3,636,393	3,809,697	3,809,697
	イ	円	1,303,277	1,051,559	867,570	867,570	697,696	532,741	359,437	359,437
②対象指標	ア	円	29,967,006	24,620,455	20,635,296	20,635,296	16,991,318	13,115,365	9,478,972	5,669,275
	イ	円	5,176,075	3,872,785	2,821,226	2,821,226	1,953,656	1,255,687	722,946	363,509
③成果指標	ア	%	100	100	100	100	100	100	100	100
	イ									
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円	168						
		地方債	千円							
		その他	千円	6,352	4,226	1,626	2,685	1,626	1,440	1,440
		繰入金	千円							
	一般財源	一般財源	千円	534	810	2,886	1,826	2,544	2,730	2,730
		(A)事業費計	千円	7,054	5,036	4,512	4,511	4,170	4,170	4,170
		(A)のうち指定経費	千円	7,054	5,036	4,512	4,511	4,170	4,170	4,170
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		人件費	人	3	3	3	3	3	3	3
人件 費	延べ業務時間	時間	35	75	100	65	100	100	100	
	(B)人件費計	千円	141	305	407	258	407	407	407	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	7,195	5,341	4,919	4,769	4,577	4,577	4,577	

事務事業名	住宅新築資金等貸付金償還事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	人権啓発教育課
-------	----------------	-----	-------------	-----	---------

2 評価の部 (SEE)

*原則は25年度の後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 市の公債費であり、適正な償還を行う。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 市の公債費であり、適正な償還を行なっている。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 他に類似事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 市の公債費の償還なので削減余地はない。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 適正に人員配置で行っており削減余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 市の公債費であり公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 市の公債費であるため、移行できる範囲はない。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

株式会社かんぽ生命保険へ適正な償還を行った。

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																				
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下		
				コスト																	
		削減	維持	増加																	
成果	向上																				
	維持		○																		
	低下																				
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																					